

科目名	薬物治療特論			ナンバリング	561105	授業形態	講義
対象学年	6	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	住谷賢治	担当教員	○福地祐司、○住谷賢治				

授業の概要	薬剤師は様々な疾患に罹患している患者に最適な薬物療法を提供するため、患者の症状を的確に把握し、予想される問題点を抽出して整理し、患者に最適な薬物療法を立案できるスキルを身に付けていなければならない。本講義では、主要な疾患である悪性腫瘍、心臓・脳血管障害、胃潰瘍、脂質異常症、糖尿病、感染症などに罹患した患者の症例について、それぞれの病態、使用する薬物の薬理作用、薬物動態、適応、禁忌、相互作用、副作用など総合的な知識をもとに学生と教員、あるいは学生間で協議しながら検討を重ね、最適な薬物療法を立案できることを目的とする。						
到達目標	1. 各講義で与えられた疾患の病態を説明できる。 2. 疾患に適応のある薬物の種類と特徴、警告、禁忌、薬物動態、副作用、相互作用について理解し、説明できる。 3. 提示された症例に最適な薬物療法を立案できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	各講義内容の疾患について、臨床現場に従事する薬剤師が薬剤管理指導業務を行うのに必要な知識に準ずる内容を問うので、各講義内容の疾患に関する特徴およびその治療薬について基本的な内容はしっかり理解しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 各講義で与えられた疾患の病態を説明できる。 2. 疾患に適応のある薬物の種類と特徴、警告、禁忌、薬物動態、副作用、相互作用について理解し、説明できる。 3. 提示された症例に最適な薬物療法を立案できる。	1. 患者の病態を的確に把握し、薬剤師として最適な薬物療法が確実に立案できる。 2. 立案した薬物療法について医師が合意するために必要な知識としての薬理作用、薬物動態、適応、禁忌、相互作用、副作用などを確実に説明できる。 3. 講義中に教員や学生に対し、適切な態度で積極的に発言できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					70%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○		30%

課題、評価のフィードバック	各講義テーマごとに提示した症例について、詳しく解説する。 期末試験問題の解説を試験後に実施し、解答用紙は要請があればいつでも開示する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	胃潰瘍(住谷賢治)	胃潰瘍の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第2回	脂質異常症、肥満、高尿酸血症(住谷賢治)	脂質異常症の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第3回	糖尿病(住谷賢治)	糖尿病の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第4回	高血圧症、血管障害(住谷賢治)	高血圧症および血管障害の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第5回	呼吸器癌、消化器癌(福地祐司)	呼吸器癌の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:C14-(3)-3-3 SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第6回	消化器癌(福地祐司)	消化器癌の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:C14-(2)-4-6 SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第7回	抗悪性腫瘍薬の副作用と癌疼痛の管理(福地祐司)	抗悪性腫瘍薬の副作用と癌疼痛の管理を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第8回	細菌感染症、ウイルス感染症(福地祐司)	細菌感染症の病態を理解し、manab@IMUIに事前に提示された症例のproblemを見出し、学生と教員で症例に対する適切な薬物療法を協議し、立案する。	SBO:C14-(5)-2 SBO:F-(3)-①-7,③-7,8,9,④-8,9,10
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	第1回～第13回までの範囲について、多肢選択式の客観試験を実施する。		
授業の進め方		各回の講義で学修する症例をmanab@IMUIに提示するので、学生は講義前にその症例の疾患に関する特徴およびその治療について基本的な内容はしっかり理解しておくこと。講義中は教員と学生がその症例の解析や適切な治療薬の選択について討論し、最適な薬物療法を立案する。		
授業外学習の指示		【予習】各回の講義で学修する症例をmanab@IMUIに提示するので、学生は講義前にその症例の疾患に関する特徴およびその治療について基本的な内容はしっかり理解しておくこと。 【復習】各回の疾患について、教科書や配布資料を用いて学修すること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	①「薬物治療学」吉尾隆他 編集、南山堂、8,800円、ISBN978-4-525-72053-7 ②「治療薬マニュアル」高久史磨、矢崎義雄 監修、医学書院、5,000円、ISBN 978-4-260-02407-5
参考書	①「新臨床内科学」高久史磨 監修、医学書院、22,000円、ISBN978-4-260-10251-3 ②「疾病と病態生理」豊島聡 監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8
参考URLなど	特になし
その他	薬剤師に求められる基本的な資質のうち、以下に示す3項目の資質の醸成に寄与する。 ②患者・生活者本位の視点、④チーム医療への参画、⑥薬物療法における実践的能力